

平成 25 年度 記者懇談会（第 6 回）の記録

日 時 平成 25 年 9 月 27 日（金）午後 4 時 00 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 9 人

同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長

次 第 1 平成 25 年度 岩見沢市職員提案制度に係る提案の受理結果について
2 その他について

1 平成 25 年度 岩見沢市職員提案制度に係る提案の受理結果について

説明内容

（市長）

本日の案件でございますが、「平成 25 年度 岩見沢市職員提案制度に係る提案の受理結果について」でございます。

この職員提案制度につきましては、職員の問題意識の高揚と市民サービスの向上、職員・職場の活性化を図ることを目的に、昨年度に引き続き、実施いたしました。

今年度も全職員を対象に、8 月 1 日から 8 月 30 日までの間で、市政の推進、市民サービスの向上、事務改善などに対する提案を募集したところであります。（参考までに昨年度は、本年 1 月 7 日～1 月 31 日に実施しております。）

その結果でございますが、今年度は、39 人の職員から計 58 件の応募がありました。

その内訳であります。全体の約 6 割にあたる 35 件が市役所改革に関する提案であります。そのほかといたしましては、安全・安心の推進に関する提案 8 件、子ども・子育ての支援等に関する提案 2 件、地域経済の活性化に関する提案 6 件、市民と共に築くまちづくりに関する提案 5 件、その他 2 件となっております。

昨年度と比較しますと人数で 19 人の減、件数では 36 件の減となっております。

なお、昨年度に引き続き今年度も提案してきた職員は 11 人、今年度、新たに提案してきた職員は 28 人で、提案制度が着実に職員に浸透してきているものと感じております。

また今年度からは、市長・副市長の査定後、提案の採択の可否及びその理由を提案者へ通知することとしており、査定結果を提案者にフィードバックすることで、職員の更なる「やる気」につなげていきたいと考えております。

質疑応答

（北海道新聞）

件数が減っているんですけども、件数が減っている要因で推測されるものをなぜ減ったのか、その要因と、昨年度、提案の中で、採択された事案について教えていただけますか。

(市長)

人数、件数ともに減ったんですけれども、昨年度の募集というのが、今年の1月7日から1月いっぱいと言うことで、その後、約半年程度しかあいていない、と言うのが一つの要因なのかなあ、と言うことと、それから、今回は提案制度に関しては、組織的に、私のほか、副市長も交えて行うというように周知をしているので、まあ、そう言ったこともあるのかなあ、という気もいたしますが、主に、期間が短いと言うのが影響しているのかなあという気がしています。

それから昨年度、1月いっぱいを受けた提案の中で、今年具体的に取り組んだのは、窓口のコンシェルジュが一つだと思います。それから、私自身もかねがね言っていたことでもあります。市民連携室という新しい部署を設け、地区担当制と言うね岩見沢を4地区に分けてそれぞれに担当の職員を置いて、という取り組みも、具体的に職員提案を受けて実現した内容になろうかと思っております。

それ以外に、実はまだ提案を基にいろいろ検討作業中なんです。例えば、今年も子ども・子育てに関する提案が2件ありましたが、昨年のその分野の提案にもありますし、子育て支援機能の拡充ですとか、集約化に向けての検討を実は今、プロジェクトチームを設置して、進めているところでございます。

(北海道新聞)

子育て支援機能の充実と言うのは、最近市長も良くおっしゃるのですが、あれもそうしますと職員提案の中で出されたものなのではないでしょうか。

(市長)

子どもと子育てに関して、現状は教育委員会の子ども課は中心市街地にあったり、母子保健の部署は別な所にあたり、今回始めたブックスタートの事業もあったり、産前産後のヘルパー事業も始めて、大変好評でご活用いただいているのですが、さらにそういったものの利便性を高めることを、私自身、課題意識として持っております。また、そう言ったことを認識して提案してくれた職員も居た、ということで、現在プロジェクトチームで検討作業中でございます。

(読売新聞)

実績で言うと何件採択されたということになるのでしょうか。

(市長)

はっきりと形として見えたのは2件だと思います。その趣旨をいかした、と言ういろいろなものもありますけれども。

(プレス空知)

さきほど説明のあった、最後の、提案採択等のフィードバックと言うのは、いつごろの時期を見ていらっしゃいますか。

(市長)

これは予算を含めての議論にもなろうかと思っておりますけれども、きちんと、それぞれが責任を持って見て、評価会議といいますか、具体的な検討を経て、なので、おおむね、今年いっぱいぐらいまで、と考えています。

(総務部長)

ある程度予算が固まるのが1月ぐらいなので、年明けまでずれ込むかもしけません。

(市長)

その中身と関連するところもある提案もあるかと思っております。

(プレス空知)

そうしますと、ある程度、次年度以降の事業として実施しますよ、ないしは、先ほどの子育て支援機能拡充うんぬんのプロジェクトチームを立ち上げますよ、というものが見え固まってきた時期にフィードバックする、と言うような形となりますでしょうか。

予算でいくとどうしても11月以降の年末の予算編成の方針が出て、その後、各部局で喧々囂々いろいろと話し合いがあると思うのですが、その段階で。

(市長)

方向性を決めるのはその前段で決めて、さらにそれで予算を伴うものについての、詳細な、もう少し具体的な検討に入る、と言う流れになるかと思っています。

(プレス空知)

もしかしたらその時期に、ヒントになるようなものが話の俎上に乗っかってくるのであれば、その段階でももしかしたらフィードバックが示唆としてあるのかなあ、という気がしたので、それはないんですね。ある程度、形が見えてきた段階で、フィードバックするような形になると。

(北海道新聞)

これ、募集していたのはいつからいつまで、だったのでしょうか。

(市長)

今年は8月1日から30日までの間です。

(北海道新聞)

昨年度は。

(市長)

1月の7日から31日までです。したがって、時期的に予算の議論には間に合いません。ですから具体的に実現したと言うのは、予算のかからない、と言ったら語弊があるのかもしれないですが、すぐにでも取り組める内容のもの、と言うことになった次第です。

(北海道新聞)

今ある提案については、予算に反映できるものは反映させていきたい、と言うことでよろしいのでしょうか。

(市長)

私はそういう希望を持っています。

(北海道新聞)

かなり良い提案もありそうですか、反映させるような。

(市長)

まだ、全部に目を通してはいる訳ではないので、言える段階ではないのですが、大変期待が出来るものも入っている。大変期待をしているところでございます。

まあ、職員提案にもそのような趣旨のものもありましたが、例えば昨年、若手職員によるプロジェクトチームで、いくつかの検討分野がありましたけれども、その中で、ホームページの改善というのもございまして、そういったものを、担当部署において、より専門的な立場の意見をいただきながら、前に進めている、というものもあります。

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（毎日新聞）

競馬場のスタンド解体によりやく着手する、という話を聞いたのですが。

（市長）

競馬場のスタンドは、解体に向けての調査費を計上してあります。

（毎日新聞）

ドカンと一発やってくれるのなら面白いなあ、と思ったんだけど。

（市長）

あの施設は一部アスベストが入っている施設なので、制約条件もいろいろありますし、その調査を今年やる、ということでございます。

（毎日新聞）

爆薬を仕掛けて、スッとやる、ということにはならないのでしょうか。

（市長）

解体ショーのようにうまくいけばいいのですが、アスベスト含有の建物を解体する場合はそういきません。まずはアスベストをきちんと処理する、完全に封じ込めることから始めなければなりません。

（毎日新聞）

かなりあるの。

（市長）

一部ですね。

（毎日新聞）

そっか、40年代だもなあ、あの建物。

（プレス空知）

一部というのでもかなりスペースがあると思うのですがけれども、あの建物全体の何%ぐらいになるのでしょうか。

（上谷副市長）

恐らく、部屋の一部に使われているのではないかと思うのですが、観覧席とか広い面積にあるという状態ではないので。

（阿部副市長）

渡り廊下とかそういうところのようです。ようです、という言い方もおかしいのですが、アスベストには種類がありまして、猛毒とか比較的毒性の低いものとか何種類かあるみたいなので、それによって多分、扱いが違うんだと思うんです。

同じアスベストでも比較的費用を掛けずに処理できるものと、相当慎重に作業を進めなければならないものがあったかと思います。

(毎日新聞)

駒澤は進んでいるんですか。

(市長)

まだまだ、目下進行中です。

(毎日新聞)

もう閉校式の案内が来ているんだけど。

(市長)

ご案内は市役所でも頂戴しております。

(読売新聞)

東京オリンピックが決まったんですけれども、ナショナルチームの合宿誘致などの検討は始められましたか。

(市長)

まだ、具体的に検討は始まっていないんですが、岩見沢市の体育施設で、例えば国際基準を満たしているものがあまりないような気がしています。陸上競技場にしても、公認自体は3次の公認ですけれども、オリンピックのトラック並みの強度のものがあるかと言うと、そうでもない。またナショナルチームと言うことになると、国内のチームの合宿の延長と言うこともあるんでしょうけれども、東京オリンピックを北海道でも波及効果をと考えて、各市それぞれ、オリンピックチームの誘致とかと言うことの検討に入っていると思うんですが、私どもとしてもそのようなことができればいいなあ、と言う気持ちはございますが、具体的な検討にはまだ入っておりません。

(北海道新聞)

庁舎の目の前の公園のモニュメント、アレは何ですか。

(市長)

「和を捧ぐ」と言います。あれは、岩見沢のこれまでの歴史を表したモニュメントになります。あの場所はもともと、非常に不正形な土地でありまして、変則交差点になっていました。それを車両の動線を考えて道路を1本通し、その時にできた中央の土地にポケットパークにして、そこにモニュメントと国際交流広場としての位置づけで、姉妹都市からの訪問団の皆さんのレンガを入れて整備をしたものです。

(北海道新聞)

オリンピックの聖火台のようにも思えたので、何か関係があるのかなあと思いました。

(毎日新聞)

海外・国内に関わらず、合宿したチームは無いんですね。

(市長)

国内チームとしては、かつてはバレーボールなんかはやったことがあるんじゃないかなあ。大きな大会はこれまでもあります。ワールドカップを行っています。ただ、合宿となると、私の記憶ではバレーボールの合宿が過去にあったように記憶していますけれども。

今年、北村温泉で広島経済大学の駅伝チームが合宿を行っています。

(北海道新聞)

先日の長期予報で今年の冬は雪が多い、と言うようなことを聞きました。日本海側ということで、どの辺りを指しているのか、はっきりとは分からないのですが、いま建設業界で重機やダンプがない、少ないというのが結構深刻化している。昨年の冬も雪が降った時に一時、ダンプが足りない、という事態に陥ったと聞いています。ダンプの確保という点で、雪が大量に降った場合、昨年以上に深刻な事態に陥るのではないかと懸念されますが、そのあたりは大丈夫なのでしょうか。

(市長)

今年、市内業者のダンプは60台と聞いています。そのため、それぞれの道路管理者、国とか道も含め、保有しているダンプを効率よく回転させていく、と言いますか、どうしても一斉に排雪作業に取り掛かることになると、ダンプの台数が限られているので、それ以上、作業が進まない、ということになりますので。

(北海道新聞)

去年はダンプを何台確保していたのですか。

(市長)

去年も同じぐらいだった、と思います。その不足分を補うのに、まあ、補うというよりも、排雪のサイクルを効率よくする、雪の堆積場をもっと増やす、と言いますか、サイクルをどう工夫していくか、ということになると思います。

昨年もありましたが、国の排雪ダンプを市の堆積場に入れさせたり、私たちも国の堆積場に雪を入れさせていただいたり、といった、お互いに、共用し合いながら、効率よく排雪を行っていくことが必要だと思っています。

(北海道新聞)

確保した台数で足りないという時には、どこか他から持って来るようなことはしないのでしょうか。

(上谷副市長)

結構、札幌からもダンプは来ているんです。ただ札幌が本格的に吹雪くなどして、排雪が始まると、どうしても足りなくなる、ということになると思います。去年も一緒なんですけれども。

これは岩見沢に限ったことではなく、全道的にもダンプは不足していて、降雪地区での排雪作業が難しくなっているのが事実です。ダンプの確保が難しくなっていますので、効率的に排雪を行っていかないとならないと考えています。

(北海道新聞)

これまでに確保してきた台数は、岩見沢にずっとある、と言う訳ではないんですね。

(市長)

つい先日、去年並みの台数が確保できそうだ、と報告を受けています。

(北海道新聞)

降雪が続くような場合、去年確保した台数に、さらに必要になった、と言う場合は対応できるのでしょうか。

(市長)

ダンプの数が多ければ多いほど、効率良く排雪作業ができますので、札幌でダンプが空いているのであれば、札幌からも呼びます。

(北海道新聞)

お話を聞いていると、この冬雪がたくさん降って、確保したダンプの台数で足りなくなった場合、さらに追加でダンプを確保するのが難しい状況にある、という気がするのですが。

(市長)

雪の降り方だと思います。それと、お互いの道路管理者が排雪を調節する、と言いますか、ちょっと早めに排雪を入れ、終わったところからそのダンプを別な現場で活用するなど、機動力をいかして、効率の良い作業を行っていくことなどが考えられます。

(上谷副市長)

あとは、なるべく近い雪捨て場に行く、というような効率的な排雪を考えることが必要だと思います。まあそこがテクニックにもなる訳ですが。捨て場も含め、より効率的にやろうと、現在検討しているところでもあります。

(HBC)

先日、職員の防災訓練がありました。市長から見て課題とか問題点とか、見えたことがあれば教えていただきたいのですが。

(市長)

リアルタイムの情報共有に課題があるのかなあ、という気がしています。現場と本部との情報が、なかなか今の状態だとリアルタイムにはなっていないですし、この状況ですと、避難されている方にその情報がすぐに伝わるか、と言いますと、まだまだ課題がありますし、最後の講評のときに私の口からも言わせていただきましたが、今日がスタートだと。自分たちがやらなかったら誰がやる、と言うことで、いま、課題の洗い出しにあたっているところでございます。

その中でも、防災担当の部署として、情報の共有にやはり課題があった、と、最初に報告が上がってきていました。詳細な課題は現在整理中と言うことでございます。

自分といたしましては、これから先の話になる訳ですが、もう少し、うちの情報機能を使って、現場と本部が同じ情報にアクセスできるような体制というものを考えられるのではないかと、という気がしています。

(HBC)

今後も訓練は継続して実施していくことになるのでしょうか。

(市長)

はい、継続して実施していきたいと思っています。

(プレス空知)

改めてになりますが、今月上旬で1年が終わって、今回の記者懇談会な訳ですが、1年を振り返ってどうでしょうか。就任から1年を振り返っての感想を一言お願いします。

(市長)

こんなに短い1年はなかったなあ、と感じています。その間、自分としては現場主義というのを心掛けてきたつもりでいるんです。ですから、直接市民の皆さんの声を聞けるような努力はさせていただいた、と言う気持ちはあります。

例えば、ごみにしろ学校給食にしろ、市民懇談会を開催させていただいたりとか、いろんな会議に出席させていただいても、その場でご意見をいただいたりとか、まず自分で見て、聞いて、感じて、それを市役所の中で議論して、決められるものは早く決めて方向性を出して、次のステップへと進む、ということに、自分なりに努力してきたつもりではおります。

(プレス空知)

苦手ではあるでしょうが、そういった自分をあえて点数にするとすれば、どれぐらいですかね。

(市長)

自分では付けられないですね。これは皆さんに付けていただくしかないと思っています。自分では自分に点数を付けるというのはちょっと難しいですよ。言っても言えないこともないのかも知れませんが、おこがましいという気がします。みなさんに付けていただくのが一番ではないかと思えます。

(プレス空知)

及第点は取れているのでしょうか。

(市長)

自分としては、赤点は取りたくないなあ、という気持ちがあるし、まあ、何とか赤点ぐらいは、どうだったのかなあ。まあ、赤点だったのかどうかも皆さんの評価次第だと思います。

(読売新聞)

JRなんですが、岩見沢市民にとっても重要な足なのかなあ、と思うのですが、一連の問題が顕在化してきて、いろいろと混乱もあるのかと思うのですが、特に市として何か要請等を行ったりはしていないのでしょうか。

(市長)

知事も直接お会いをして要請すると言うようなことも報道されていましたが、いくつかの議会では、安全確立を求める決議をなさっているところもありますが、いま具体的に市として要請ということはしないです。議会の方からも私どものところには何も届いておりません。

公共交通機関ですから、責任を持って安全管理を徹底していただくのが基本だと思います。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)